

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	航空宇宙材料2(Aerospace Material Science 2)	授業コード	C066501
担当教員名	本多 恒雄		
配当学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期
必修・選択区分	必修	単位数	2
履修上の注意または履修条件	本科目を履修する場合「航空宇宙材料1」は履修済みであることが望ましい。		
受講心得	各種材料を開発することより、それを使う立場で材料の特性を理解するようにして下さい。		
教科書	航空工学講座4 航空機材料(日本航空技術協会)赤木功他著		
参考文献及び指定図書	改訂 機械材料(共立出版)佐野元著 イントロ金属学(オフィスHANS)松山晋作著		
関連科目	航空工学基礎1、航空機構造、材料力学、航空宇宙材料1		

授業の目的	航空機や宇宙機には多くの金属や非金属が使用されています。これらの特性を理解することを目的とします。
授業の概要	航空宇宙材料2では、航空機及び宇宙機に関係が深い合金鋼、ステンレス鋼、耐熱合金、アルミニウム合金、マグネシウム合金、チタニウム合金について学びます。また非金属材料や複合材料の概要について解説します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：金属材料の規格 材料から見た航空機の歴史について復習し、代表的な金属材料規格を学習します。	テキストで予習・復習
第2週：鉄鋼一般 鋼中の合金元素の主な作用、鋼の鉄処理の種類、鋼の表面硬化方法について学習します。	テキストで予習・復習
第3週：炭素鋼、合金鋼 炭素鋼、合金鋼の種類とその性質等について学習します。	テキストで予習・復習
第4週：ステンレス鋼 ステンレス鋼の種類とその性質等について学習します。	テキストで予習・復習
第5週：耐熱合金(1) 航空ガスタービン用材料として発達した経緯、主な耐熱合金(鉄基合金、ニッケル基合金、コバルト基合金)について学習します。	テキストで予習・復習
第6週：耐熱合金(2) 新しい耐熱合金の開発について学習します。	テキストで予習・復習
第7週：アルミニウム合金(1) 航空宇宙材料としてのアルミニウム合金の歴史、特徴、規格及び一般的性質について学習します。	テキストで予習・復習
第8週：アルミニウム合金(2) アルミニウム合金の加工法及び主な合金の特性について学習します。	テキストで予習・復習
第9週：マグネシウム合金 航空宇宙材料としてのマグネシウム合金の一般的性質、加工、主な合金の特性について学習します。	テキストで予習・復習
第10週：中間試験とその解説 これまで学習した内容の理解度を確認するため中間試験を行い、不足部について解説します。	テキストで予習・復習
第11週：チタニウム合金(1)	

航空宇宙材料としてのチタニウム合金の規格と名称、一般的性質、加工等について学習します。		テキストで予習・復習
第12週：チタニウム合金(2) 主なチタニウム合金の特性について学習します。		テキストで予習・復習
第13週：プラスチック プラスチック全般、熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂について学習します。		テキストで予習・復習
第14週：複合材料(1) 航空宇宙材料としての複合材料全般、代表的な複合材について学習します。		テキストで予習・復習
第15週：複合材料(2) 複合材料の将来性について学習します。		テキストで予習・復習
第16週：期末試験 これまで学習したすべての内容の理解度を確認するため期末試験を実施します。 試験時間60分		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①航空機及び宇宙機に使用される材料に関心を持ち、授業や課題に果敢に取り組み、柔軟な思考で課題解決法を見出すことができる。
【知識・理解】	①航空機及び宇宙機に使用される代表的な金属材料及び非金属材料に関して基礎知識及び特性を体系的に理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	90点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	授業での取り組み姿勢および態度を客観的に評価します。特に欠席・遅刻・早退した場合は減点となります。